



市長 からの 手紙

48 運命

先日、子どもの命名という仕事がありました。事情により親の届け出ではなく、川越市で子どもの戸籍を作ることになったためです。市長に就任して以来初めての経験でした。名前を考える過程で、いろいろなことを思いました。以下は、全くの私見です。

生まれてくる子どもは親、時代、地域、国を選べません。これらはすべて与えられたものです。また、身体的能力、知的能力、精神力(意志の力)なども所与のものがあります。このような自分では選ぶことができない要素が、相当程度人の人生を左右します。

仮に私が、10代の頃に一流の指導者に師事し、短距離走の練習を熱心に積み重ねていたら100mを10秒で走れるようになっていたかということ、それは不可能だと思えません。一流の陸上選手でも短距離に強い人、

中長距離に強い人それぞれです。

また寿命も、事故や病気などを考えると、注意や精進といった人の努力が影響を及ぼすのには限界があるといえます。

さらに、地球上には戦争状態の国、恐怖政治の国、飢餓による死者が多数発生している国などがあります。

このように考えると、日本という平和な国で、普通の生活を送れるのは、実は大変恵まれているのだという思いが強くなります。

私は、平成12年から同15年まで司法研修所で教官をしました。毎年最後の講義のときには、まもなく法曹として実務に就く修習生に対して「皆さんは、社会の中で大変恵まれた立場にあるのだから、これから仕事をしていく中で、自分の有する能力・体力・時間・お金のどれでもいいから、その数パーセントは、自分より困難な立場にいる人のために使ってほしい」という趣旨の話をしていました。

子どもが大きくなって、「自分は平和な日本で生を受け、多くの人に支えられて無事育つことができ良かった」という前向きな気持ちを持ち、明るくたくましく生きてくれるようにという思いを込めて、命名しました。

川越市長 川合善明

環境にやさしい行動を目指して2

身近な自然から学ぶ、生物多様性

環境政策課 224・5866

皆さんは「生物多様性」という言葉をご存じですか。生物多様性とは、地球上には多種多様な生き物がいて、それぞれが個性を持ち、互いにつながり支え合いながら生きている、ということなんです。私たちは、生物多様性が保たれていることで、さまざまな恩恵を受けています。何か欠けてそれが壊れてしまうと、生き物は生きていけなくなってしまうんです。



雑木林での自然観察会

ところが、人間の生活や開発による影響、また外来生物の脅威等により、昔はどこにでもいた生き物たちが見られなくなるなど、生物多様性が脅かされつつあります。私たちがずっと安心して暮らすためには、自然の中のさまざまな生き物を守っていくことが大切です。

そこで市は、生物多様性についての理解を深めていただくために「かわごえの生き物をたずねて」という講座を開催しています。3月に同講座へ参加した須藤喜美子さん(野田)は、「今まで知らなかった川越の自然が身近になりました」と話してくれました。今年度も自然観察を取り入れた講座を開催します。未来へ暮らしやすい環境をつないでいくように、生物多様性の大切さを学んでみませんか。